

頻出ポイント① 仮定法の基本

★ 非現実（可能性なし）の文には仮定法の時制（1つ時間が過去にズレる）を用いる。

1. 基本公式（×3）

□ If S 過去形 ～,  $\xrightarrow{\text{①}}$  S would 原形 ...  
 「もし（今）～なら」  $\xrightarrow{\text{③}}$  「（今）...だろう」

□ If S had Vp.p. ～,  $\xrightarrow{\text{②}}$  S would have Vp.p. ...  
 「もし（昔）～なら」 「（昔）...だったろう」

※1：wouldの代わりにcould「できる」・might「かもしれない」も可。

※2：③は「時を示す副詞」(thenやnow)によって、前後で時間がズレていることが明らかな場合のみ。

例①：If I were a bird, I could fly. 「もし鳥なら、飛べるのに」

If we had practiced harder, we could have won the game.

「もし私たちがもっと練習しておけば、その試合に勝てたでしょう」

If he had followed my advice (then), he would be successful (now)

「もしあの時彼が私の助言に従っていたら、今彼は成功しているでしょう」

<例題1> 適語を選べ。

1. If the police ( ) the girl earlier, they might have saved her life.

(a) had found (b) has found (c) would find (d) could find

2. If he ( ) care of himself in his younger days, he would not be in hospital now.

(a) took (b) had taken (c) would take (d) has taken

2. 未来に関するif表現（×3）

① If S 現在形 ～,  $\xrightarrow{\hspace{2cm}}$  S will 原形 ... または 命令文 ...  
 「もし（未来に）～なら」〈可能性高〉 「...だろう」 「...しなさい」

② If S should 原形 ～,  $\begin{cases} \nearrow \\ \searrow \end{cases}$   
 「もし（万が一）～なら」〈可能性低〉

③ If S were to 原形 ～,  $\xrightarrow{\hspace{2cm}}$  S would 原形 ...  
 「もし（仮に）～なら」〈可能性関係なし〉 「...だろう」

※ willの代わりにcan「できる」・may「かもしれない」も可。

例②：If it rains tomorrow, I will stay home.

If it should rain tomorrow, I will [would] stay home.

If it were to rain tomorrow, I would stay home.

<例題2> 適語を選べ。

1. I don't think she will visit me, but if she ( ) while I'm out, tell her more details about our company.

(a) came (b) had come (c) should come (d) will come

2. If you were to fall from that bridge, it ( ) almost impossible to rescue you.

(a) is (b) was (c) would be (d) would have been

**頻出ポイント ②** 仮定法の倒置

★ 仮定法は if を省略して倒置形に書き換えられる（ただし文語的な表現）。

① If S <u>were</u> ~	} = {	<u>Were</u> S ~
② If S <u>had</u> ~		<u>Had</u> S ~
③ If S <u>should</u> ~		<u>Should</u> S ~

<注意>  
 仮定法の倒置が起こるのは、元の文に were/had/should を使っている場合のみ。

例③ : If I were a bird [= Were I a bird] , I could fly.

If it were to rain tomorrow [= Were it to rain tomorrow] , I would stay home.

If we had practiced harder [= Had we practiced harder] , I could have won the game.


If it should rain tomorrow [= Should it rain tomorrow] , I will [would] stay home.

<例題 3 > ( ) you need any help, just let me know. (適語)

- (a) Could (b) Had (c) Should (d) Would

**頻出ポイント ③** wish+仮定法

★ wish に続く that 節内には仮定法を用いる。

<b>I wish (that) S+</b> 	}	① <u>had Vp.p.</u> = 「(昔) ... だったらいいなあと思う」
		② <u>過去形</u> = 「(今) ... ならいいなあと思う」
		③ <u>would 原形</u> = 「(未来に) ... ならいいなあと思う」

**If only** や **I would rather** で書き換え可。

例④ : He wishes he had married Sue. 「彼はスーと結婚しておけばよかったなあと思っている」

I wish I were taller. 「私はもっと背が高ければなあと思っている」

They wish she would come tonight. 「彼女が今夜来ればいいなあと彼らは思っている」

※ 可能性がある場合は, I hope (that) S+直説法(普通の時制)を用いる。

例⑤ : I hope that you can join us for dinner tonight. 「今晚ディナーに来て下さればいいのですが」

<例題 4 > 適語を選べ。

1. I know they are busy, but I wish they ( ) come to the party tomorrow.


- (a) will (b) would (c) had (d) would have

2. ( ) we had left ten minutes earlier!

- (a) I hope (b) It's time (c) If only (d) No wonder

**頻出ポイント ④** as if+仮定法

★ as if の後は, (非現実の内容の場合は) 仮定法を用いる。

<b>SV (~) as if S+</b> 	}	① <u>had Vp.p.</u> = 「(昔) まるで... したかのように~」
		② <u>過去形</u> = 「(今) まるで... するかのように~」
		③ <u>would 原形</u> = 「(未来に) まるで... するかのように~」

**as though** で書き換え可。

例⑥ : She looks as if she had seen a ghost. 「彼女はまるで幽霊でも見てきたかのような様子だ」

He speaks as if he knew everything. 「彼はまるですべてを知っているかのような口ぶりだ」

I feel as if my heart would burst. 「心臓が張り裂けそうな気分だ」

※ 可能性がある場合は, as if+S+直説法(普通の時制)を用いる。

例⑦ : 「彼女は顔色が悪い。病気のようなだ」 = She looks pale. She looks as if she is (現在形) ill.

<例題 5 > 「彼女のふるまいはお姫様みたいだ」(英訳)

She behaves \_\_\_\_\_

**頻出ポイント ①** 不定詞の名詞用法 vs 動名詞

★ 不定詞の名詞用法と動名詞はどちらも「～こと」と訳せるため、区別が必要。以下が〈基本原則〉。

**可能性(まだしてないこと) = to V (不定詞)**

**事実(すでにしていること) = Ving (動名詞・現在分詞)**

1. 動詞の主語 [S]・補語 [C] になる場合 → 上記の〈基本原則〉通り

例①: 「切手を集めることは私の趣味です」 = Collecting stamps is my hobby. ☞ すでに集めている  
 「私の夢は宇宙飛行士になることです」 = My dream is to be an astronaut. ☞ まだなっていない

2. 動詞の目的語 [O] になる場合 → 前の動詞によって決まる

**パターン1** うしろに不定詞のみ

- decide to V 「～を決める」
- expect to V 「～を期待する」
- promise to V 「～を約束する」

**パターン2** うしろに動名詞のみ

- enjoy Ving 「～を楽しむ」
- finish Ving 「～を終える」
- give up Ving 「～をやめる」

**パターン3** 両方 OK (意味も同じ)

- begin [start] to V/Ving 「～を始める」
- like [love] to V/Ving 「～が好きだ」
- intend to V/Ving 「～つもりだ」
- plan to V/Ving 「～を計画する」

※ intend/plan の後は to V がふつう (Ving は一部のイギリス英語のみ)。

<例題1> I usually start ( to work / working / worked ) at six. (適語をすべて選べ)

**パターン4** 両方 OK (意味は異なる)

1. 〈基本原則〉通り

- forget [remember] to V/Ving 「～すること/したことを忘れる [覚えている]」
- regret to V/Ving 「～することを残念がる/～したことを後悔する)」
- try to V/Ving 「～しようとする/試しに～してみる」

※ regret の後の to V には伝達動詞 (say/inform など) のみ。

例②: 「残念ながら彼女は重傷を負っています」 = I regret to say that she is seriously injured.

<例題2> I forgot ( to bring / bringing ) money with me yesterday, so I couldn't buy anything.

2. 〈例外〉パターン

- stop to V 「～するために立ち止まる」… to V は副詞用法〈目的〉
- stop Ving 「～することをやめる」… Ving は動名詞
- need to V 「～する必要がある」… 文の S と to V が能動関係
- need Ving [to be Vp.p.] 「～される必要がある」… 文の S と Ving が受動関係

<例題3> 適語を全て選べ。

1. 「彼は禁煙した」 = He stopped ( to smoke / smoking ) .
2. 「彼は煙草を吸うために立ち止まった」 = He stopped ( to smoke / smoking ) .
3. 「私はこの車の修理をする必要がある」 = I need ( to repair / repairing / to be repaired ) the car.
4. 「この車は修理が必要だ」 = This car needs ( to repair / repairing / to be repaired ) .

3. 前置詞の後の目的語 [O] になる場合 → 動名詞は OK, 不定詞は NG。

例③: 「私は小説を書くことに興味がある」 = I am interested in writing (×to write) novels.

**頻出ポイント ② 動名詞の意味上の主語**

★ 動名詞の前に意味上の主語を置く場合、所有格か目的格を用いる。

1. 名詞を使う場合 … **所有格** (～'s をつける) 〈文語〉, または**目的格** (～'s をつけない) 〈口語〉

例④ : I'm sure of Tom's [Tom] **winning** the race. 「私はトムがレースで優勝することを確信している」  
意味上の主語 Ving ⇔ Tom(S) win(V)の関係

2. 代名詞を使う場合 … **所有格** (my など) は 〈文語〉, または**目的格** (me など) 〈口語〉

例⑤ : I'm sure of his [him] **winning** the race. 「私は彼がレースで優勝することを確信している」  
意味上の主語 Ving ⇔ He(S) win(V)の関係

※ 前に意味上の主語がない動名詞は文の S と 〈S+V〉 の関係になる。

例⑥ : Would you mind **opening** the window? 「窓を開けるのは嫌ですか」  
S Ving ⇔ You(S) open(V)の関係

<例題 4> 「エマの父はボーイフレンドと結婚するなど言った」 \*insist on ~ 「～を要求する・主張する」

Emma's father insisted on not marrying her boyfriend. (誤りを訂正せよ)

誤 : \_\_\_\_\_ → 正 : \_\_\_\_\_

**頻出ポイント ③ 不定詞の形容詞用法**

★ 不定詞の形容詞用法は前の名詞を修飾する。前の名詞と不定詞の関係に注意する。

**名詞+to V** 「V する (ための・という) 名詞」

Writing・Speaking で注意  
前置詞を忘れずに!

1. **主格関係** … 名詞と to V が 〈S+V〉 の関係

例⑦ : 「私は手伝ってくれる人が必要だ」 = I need **someone to help** me. ⇔ someone(S) help(V)の関係  
名詞 to V

2. **目的格関係** … 名詞と to V が 〈V+O〉 の関係

例⑧ : 「私は養う家族がいる」 = I have **a family to support**. ⇔ support(V) a family(O)の関係  
名詞 to V

例⑨ : 「私は頼れる人がいない」 = I have **nobody to depend on**. ⇔ depend on nobody の関係  
名詞 to V

<例題 5> 「私たちはサッカーができる大きなグラウンドが欲しい」 (英訳)

We want a large field \_\_\_\_\_

3. **例外関係** … 名詞と to V が 〈S+V〉 や 〈V+O〉 の関係にならない。

1. 動詞や形容詞のときにうしろに to V が続いていた名詞

例⑩ : 「彼はパリを訪れることを決めた」 = He made **a decision to visit** Paris.

※ decide+to V 「～を決める」 → decision+to V 「～するという決定」

例⑪ : 「彼は英語を話す能力がある」 = He has **the ability to speak** English.

※ be able+to V 「～できる」 → ability+to V 「～する能力」

2. 無条件でうしろに to V を置ける名詞

例⑫ : 「私は本を読む時間がない」 = I have no **time to read** books.

□ (time 「時間」 / place 「場所」 / reason 「理由」 / way 「方法」) + to V  
□ (chance 「機会」 / opportunity 「機会」 / right 「権利」 など)

<例題 6> 英訳しなさい。

1. 「彼は太りやすい体質だ」 = He has a tendency \_\_\_\_\_

2. 「誰もが言いたいことを言う権利を持っている」

= Everyone has the right \_\_\_\_\_